

## 事後評価報告書

カフラマンマラシュ(トルコ南東部)地震関連「国際緊急共同研究・調査支援プログラム(J-RAPID)」

### 1. 研究課題名:

『よりよい復興』に向けた公衆衛生保健システムのレジリエンス:スコアカードを用いた評価分析

### 2. 研究代表者名:

日本側: 広島大学大学院医系科学研究科 准教授 加古 まゆみ

トルコ側: 健康科学大学救急医学分野 准教授 イスマイル・テイファー

### 3. 事後評価結果

#### (1) 研究成果の評価について

カフラマンマラシュ、ハタイの2被災地域において、公衆衛生保健関係者に対して、スコアカードによる多面的・体系的な客観的定量システム評価をオンラインで実施した。その結果、公衆衛生システムの具体的な課題(公衆衛生システムのインフラの強靭性、コミュニティへの参画、災害に対する精神保健サービス、救命救急センターにおける患者急増の管理、など)が、数値的に明らかにされた。

スコアカードの採点結果を使用したワークショップを開催し、対面での半構造化詳細インタビューにより、参加者による戦略と解決策の検討を実施した。ワークショップには多様な組織からの参加があったが、立場の違いを超えてスコアカードが洗い出した課題を共有することができたため、参加者間で広く課題の全貌の理解を深めることができた。そのため、参加者が今後の解決策の検討や災害対応の計画を、建設的・協力的に実施することができ、具体的な対策への基礎を作ることができた。これらの具体的な解決策は、参加者によって共有されているため、今後具体的な改善に向けたアクション計画を定めることによって、政府・自治体における改革に効果を上げることが期待される。

以上の研究成果は、トルコの防災の強靭化に大きく寄与するものであり、高く評価される。また、スコアカードとそれに基づく詳細インタビューを取り込んだ、ワークショップの有効性を高いレベルで示したものであり、災害時のみならず広く公衆衛生システムの改善に対する活用と効果が期待される。また、これらの成果はジャーナルや国際会議等で発表されており、広く公開されている。

#### (2) 交流活動の評価について

現地の公衆保健関係者から収集した定量的数値を元に、現地の関係者の課題に対する気づきと理解を促したこと、それが意識改革を生んで現地関係者による自主的な改善提案に結びついていることは、交流の成果として意義が高い。多くの現地ステークホルダーの意識改革は、今後のシステム改善に対する優れた基盤を作り出したものと考えられ、今後の具体的なアクション計画を定めることによって公衆保健システムの改善に結びついていくと期待される。

以上の成果は、交流活動として意義が高いと評価される。

**(3)その他**

特になし。

以上